

[様式1]

法面調査カルテ（斜面の概要、被災・変状の発生状況）

位置番号		報告書No.		法 高	高さ	15.0	m	3	段	対策工	抑止工	RB、GA
所在地	西原町津花波			延 長	55.6				m		抑制工	
路線名	津花波・上原線			法勾配	1：1.0				完成年月	令和4年3月末		
地形	崖錐地形， 崩壊跡地(地すべり地)， 台地の裾部， 脚部浸食， 集水型斜面， 凸状尾根型斜面， 鞍部											
地質構造	崖錐・崩積土， 風化岩， 固結度の低い岩， 割れ目の多い岩， 流れ盤(層理面、弱線)， 不透水性基盤上の土砂											
湧水状況	湧水あり， しみ出し程度											
周辺地山の状況(崩壊箇所との相違点や地形地質の違い)												
① 法肩上部地山の割れ目、沈下、浮石（崩壊部： 周辺地山： ）						⑤ 構造物周辺の地盤の洗堀、沈下等（崩壊部： 周辺地山： ）						
② 法肩上部地山の植生衰退等の変化（崩壊部： 周辺地山： ）						⑥ 法面排水溝の確保、機能不能の発見（崩壊部： 周辺地山： ）						
③ 法肩への流下水の集中状況（崩壊部： 周辺地山： ）						⑦ 法面側方部、下方部からの湧水状況（崩壊部： 周辺地山： ）						
④ 法面と構造物の境界部の洗堀、割れ目、空洞等（崩壊部： 周辺地山： ）						⑧ その他						
【平面図】												
【断面図】												
【地形地質構造】												
・斜面概要：町道建設時の切土法面からなり、島尻層群泥岩で構成される。切土法面は南東向き。												
・地層構成：表層に1.0m程の埋土、その下位に泥岩風化部が2.5m程度、弱風化泥岩は深度3.5m以深より確認												
・地質的特徴：既存地質図より基盤の島尻層群泥岩は、東南東に8°程度傾斜しており、調査地の泥岩は流れ盤構造を呈している。												
【災害・変状概要(要因)】												
・事前対策工：あり・なし												
・崩壊・変状の発生状況：												
ステップ①→町道建設に伴い切土法面を構築												
ステップ②→切土による応力開放ならびに降雨等により地すべりが発生												
ステップ③→地すべり滑動により、法枠や小段側溝および擁壁などの既設構造物に亀裂などの変状が発生。												
・素因・誘因：素因は①地すべりが発生しやすい第三紀層泥岩が地山。②過去の造山滑動により、地盤中に弱面が形成されていた。③流れ盤構造を呈す(既存地質図より)。												
誘因は①切土による応力開放。②豪雨や長雨による間隙水圧上昇。												
【被災後の対策工】												
・抑制工：現況より、排土工や抑え盛土等の抑制工は困難												
・抑止工：アンカー工+鉄筋挿入工												
・設計思想：当該地の土地利用状況から、抑制工(排土工、抑え盛土工)は困難なため、吹付法枠を併用したアンカーを打設し、その緊張力により地山の安定を図る。また、法面上・下段には鉄筋を挿入し、その引張抵抗力により崩壊を防止する。												

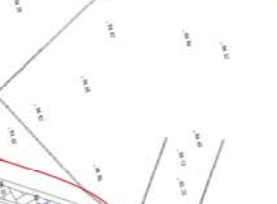
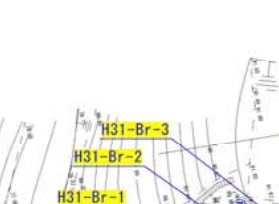
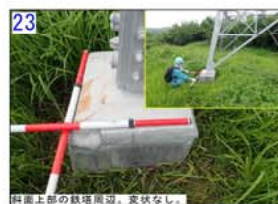
[様式2]

法面調査カルテ（斜面の概要、被災・変状の発生状況）

位置番号	0	報告書No.	0	法 高	高さ 15.0 m 3 段	対策工	抑止工	RB、GA
所在地	西原町津花波			延長	55.6 m		抑制工	0
路線名	津花波・上原線			法勾配	1:1.0 ~	完成年月	令和4年3月末	

地表踏査図

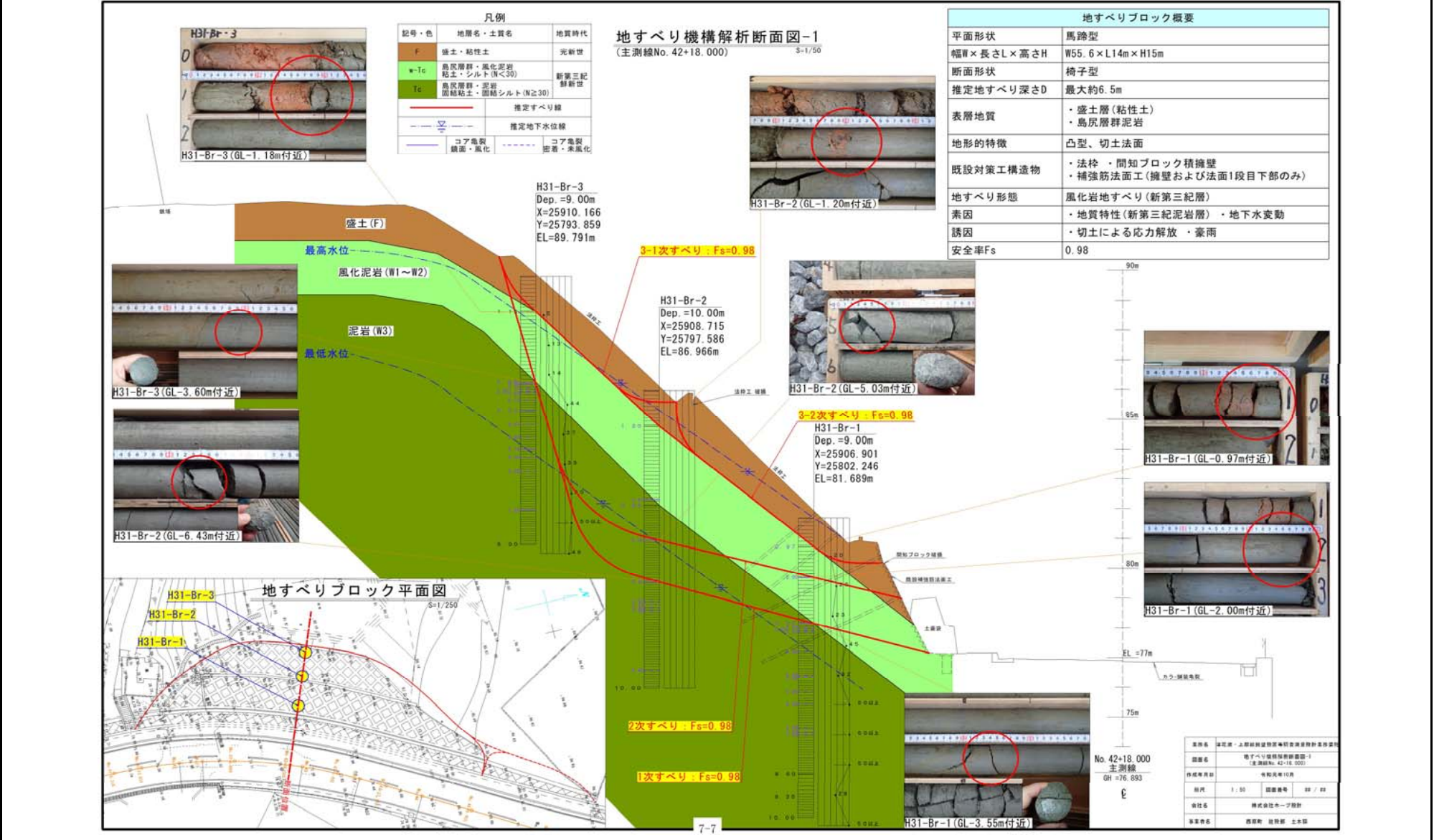
8/17/2022



[様式2]

法面調査カルテ（斜面の概要、被災・変状の発生状況）

位置番号	0	報告書No.	0	法 高	高さ 15.0 m 0 段	対策工	抑止工	RB、GA
所在地	西原町津花波			延 長	55.6 m		抑制工	0
路線名	津花波・上原線			法勾配	1：1.0 ～	完成年月	令和4年3月末	



[様式3]

法面調査カルテ（斜面の概要、被災・変状の発生状況）

位置番号	0	報告書No.	0	法 高	高さ 15.0 m 3 段	対策工	抑止工	RB、GA
所在地	西原町津花波			延 長	55.6 m		抑制工	0
路線名	津花波・上原線			法勾配	1：1.0 ～	完成年月	令和4年3月末	

